（様式１）

令和６年度　学校運営協議会自己評価表

浜松市立（　佐久間中　）学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

『こころざしをもち、共に高め合う生徒の育成』の学校教育目標の下、連携型中高一貫の特色を生かしつつ、さまざまな人と関わりながら高め合える教育活動を行う。

＜評価項目１＞　学校運営の基本方針について熟議することができたか。

西田校長が着任して１年が経過し、学校運営委員からの意見を基に策定された学校経営の基本方針、身につけさせたい４つの力（かかわる力・みつける力・ふかめる力・かなえる力）が明確になった。運営協議会として、どのようにしてその達成へ向かうためにできる支援活動を行っていくか、今ある支援活動の在り方も含め、議論を深めることができた。

また新年度に向け、休日部活動の地域移行について、校長よりその時点での浜松市の方針の説明と本校の方向性が示された。疑問に思うことを率直に質問することができ、しくみを含め理解を深めることができた。

＜評価項目２＞　承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

昨年度に引き続き、学校支援活動を通じて、地域の人･こと･もの、といった教育資源を活用する教育活動を支援することができた。特に総合的な学習の時間の個別探究活動の意見交換会や終日探究の日には、これまでにはない具体的な質問をする生徒の姿が見られ、４つの力が確実に育っている実感が得られた。夢育やらまいか（CS加算）による金銭的な支援をタクシー借り切りに充てたことで、充実した取材活動ができたとの報告も受けた。昨年度の熟議が実を結んだ成果と言える。今後も生徒の活動を充実させるための支援活動を継続していきたい。

＜評価項目３＞　協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

学校だより、回覧板、ホームページによって、学校と協議会の関係をその都度、丁寧に情報発信できている。活動を理解し、快く協力してくれる方がいる一方で、会議でのやり取りまでは地域に広まっているとは言えない部分もある。高齢者が多いこの地区では、社会のデジタル化に追いついていけない難しさもある。また、学校運営協議会、学校支援コーディネーターなどの名称が分かりにくいという声もいただいている。

＜評価項目４＞　今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

生徒に身に付けさせたい力を踏まえ、支援するための人的、経済的サポートのしくみを提案し、地域資源の掘り起こしを進めてきた。少人数だからこそ取り組める活動を継続し、地域とのつながりを常に意識し、生徒一人一人が主役となって輝く学校づくりのサポートをしていきたい。また、学校運営協議会の取組が地域の方々や保護者に十分理解されているとは言い難いので、その点の浸透について力を入れていきたい。

来年度は、令和８年９月から実施される「休日部活動の地域移行」について本格的な準備が必要になる。これも地域との関係が不可欠な活動となることから、学校運営協議会もその一助となれるよう学校と共に議論を重ねていきたい。